

情報研究

関西大学総合情報学部紀要

特集 青山 千彰教授 定年退職記念

第 47 号



2018年1月

目 次

〔特集 青山 千彰教授 定年退職記念〕

青山千彰先生の定年ご退職にあたって…………… 桑原 尚史 …… (1)

「道迷い遭難」の行動特性, ならびにPLP法を用いた対策について
…………… 青山 千彰 …… (3)

青山 千彰 教授 略歴 …… (35)

〔論 文〕

Issues on Implementing Lesson Study in Bangladesh Context
…………… Muhammad Nur-E-Alam SIDDIQUEE,
Kenichi KUBOTA ……(43)

「豊臣期大坂図屏風」のデジタルコンテンツ制作
…………… 井浦 崇, 黒田 一充, 橋寺 知子, 高橋 隆博 ……(55)

〔特集 青山 千彰教授 定年退職記念〕



青山 千彰 教授

青山千彰先生の定年ご退職にあたって

総合情報学部長 桑原 尚史

まずは、青山千彰先生のご経歴を紹介しよう。青山千彰先生は、1973年3月に関西大学工学部土木工学科をご卒業になり、直ちに関西大学工学部の副手に就任され、その後、1976年4月に同学部助手、1989年4月に同学部専任講師へと昇進された。そして、1994年4月、総合情報学部の開設と同時に、工学部より当学部に助教授として移籍され、1997年4月に教授に昇進された。

工学部時代の青山千彰先生のご専門は土木工学であり、地盤および土質を対象とされ、花崗岩の風化残積土としての「まさ土」の物理工学的性質、および斜面崩壊のメカニズムについて数多くの研究を発表してこられた。総合情報学部への移籍後は、ヒューマンエラーのメカニズムおよびリスク情報処理過程へと研究の主題を展開され、山岳遭難事故や医療事故等を対象として精力的に研究が行われた。山岳遭難事故に関する研究に関しては、現在、青山千彰先生は、国内における第一人者である。したがって、山岳遭難事故が起きると、新聞やテレビが必ず先生のもとに取材に訪れる。

第一人者であるが故に、青山千彰先生は、学外の数多くの団体から要請を受け、これまで、国際山岳連盟 UIAA、日本山岳協会、日本山岳 SAR 研究機構、日本勤労者山岳連盟等の団体において、重要な役職を勤められ、各団体を牽引してこられた。なかでも、山岳関連各団体を結んで、共通の基準および用語によって山岳遭難事故のデータベースを構築するという偉業は、青山千彰先生の働きかけとご尽力がなければ、到底行われることはなかったであろう。

さて、学内に目を転ずれば、青山千彰先生は、学部においては、「環境情報論」および「事故・災害リスク論」といった講義を担当され、環境アセスメントや環境リスク、事故や災害への対応に関する諸問題について数多くの動画や画像、またデータ等の資料を用いて、高い専門性を保持しつつも、初学者にもわかりやすく講義をされた。また、大学院では、「危機情報論」の講義をご担当になり、リスクをいかに捉え、そのリスクにいかに対応するかという問題について講義をされた。そして、学部の専門演習および卒業研究、さらには大学院のプロジェクトにおいては、懇切丁寧かつ慈愛に満ちた指導をされ、優秀な人材を数多く社会に送り出してこられた。また、学部の運営に関しては、学生主任、教学主任といった役職を歴任され、学部の運営を支えてこられた。関西大学における在職年数が短い教員の多いこの学部のなかで、青山千彰先生の豊富な知識および経験が大きな力となったことは言うまでもない。

このように、青山先生はこれまで、当学部、総合情報学部はもとより、関西大学、さらには、学界、また社会に大きな貢献を果たしてこられた。この貢献に感謝するとともに、先生のますますのご健勝とご活躍を祈念する次第である。